

美しい地球を次代へ 日中の有識者が北京市に集結 中国で第4回「日中環境国際シンポジウム」を開催

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役、以下当財団）は9月8日（火）、中華人民共和国（以下、中国）北京市において第4回「日中環境国際シンポジウム」を開催します。

当財団は、地球環境の保全が世代と国境を超えた課題であることをふまえ、経済成長と環境保全の両立を目指す中国と日本との国際協力促進を目的に、1993年から3度にわたり「日中環境国際シンポジウム」を開催してきました。第1回シンポジウムでは、民間レベルでの環境協力が議論され、第2回（1995年開催）では大気汚染、第3回（1997年開催）ではエネルギー対策と環境保護など、経済社会の持続的発展に向けて、さまざまな討議が重ねられてきました。また、第2回、第3回の議論をきっかけに、当財団は1998年より「万里の長城・森の再生プロジェクト」を開始し、2010年には同地における植樹本数が100万本を超えました。

当財団設立25周年を迎えた本年、地球温暖化による環境への影響や経済発展に伴う都市部での公害など、世界が直面する環境問題の解決策を模索するとともに日中のさらなる国際協力を促進するべく、第4回「日中環境国際シンポジウム」を北京市で開催します。本シンポジウムでは、「国際社会における環境改善と社会の持続的発展」をテーマに、グローバルに活躍する両国の専門家・有識者が一堂に会し、討議を行います。また、本シンポジウムの総括として、世界に向けて「イオン北京環境提議」を発表します。

当財団は、次代を担う子どもたちに美しい地球を届け、人と自然が共生する「夢のある未来」を実現していくために、これからもさまざまな取り組みを行ってまいります。

記

1. 日 時：9月8日（火）9：00～16：00
2. 場 所：北京市内 北京国際飯店 コンベンションセンター
3. 主 催：北京市環境保護局、公益財団法人イオン環境財団
4. 後 援：中華人民共和国環境保護部、北京市人民政府、日本国環境省
5. テーマ：国際社会における環境改善と社会の持続的発展
6. 参加者：500名
7. 講演者について（予定）

（中国側）	潘 涛	北京市環境保護研究院 常務副委員長
	凌 越	北京市環境保護宣伝センター（PR）主任
	芦 建茹	北京市環境保護局法制処 処長
	蔣 南青	国連環境計画（UNEP）駐中国事務所 環境責任者
	張 海濱	北京大学国際関係学院 教授
	孫 继荣	北京大学社会責任研究所 首席顧問
	馬 慧新	北京市公共交通機関技術部 部長
	常 杪	清華大学環境学院 副研究員、環境管理と政策研究所所長

(日本側)	岩槻 邦男	東京大学名誉教授
	大西 隆	豊橋技術科学大学学長・日本学会会議会長
	住 明正	独立行政法人国立環境研究所理事長・元東京大学教授
	武内 和彦	国際連合大学副学長・東京大学教授
	土屋 了介	地方独立行政法人神奈川県立病院機構理事長 元国立がんセンター中央病院院長
	新美 育文	明治大学法学部教授
	樋口 清司	国際宇宙航行連盟 (IAF) 会長・宇宙航空研究開発機構技術参与
	南川 秀樹	日本環境衛生センター理事長・環境省元事務次官 (当財団理事)

* シンポジウム終了後、16:30～ コンベンションセンター1Fにて記者会見を予定しています。

ご参考

【これまでの「日中環境国際シンポジウム」について】

◆第1回（1993年）



テーマ「環境問題と人間社会」

高度経済成長と環境保全の両立を目指す中国と日本は、「地球の未来を守るために」という共通視点のもと国際協力を促進するべく、本シンポジウムを開催しました。全体会議および分科会において活発な討論が行われ、民間レベルにおける環境協力についての大枠指針がまとめられるとともにシンポジウムの継続的な開催が合意されました。

◆第2回（1995年）

テーマ「環境問題と人間社会」

撫順市での事前実地調査を討論資料とし、特に大気汚染対策に絞って両国の環境協力推進を合意しました。また、都市の経済発展に伴う環境問題や、環境保全の技術、環境法などについて討議が交わされました。本シンポジウム内で、環境保全の必要性と重要性を世界に向けて発信するため、「万里の長城・森の再生プロジェクト」が提案されました。

◆第3回（1997年）



テーマ「環境問題と人間社会」

経済社会の持続的発展に向けて、エネルギー対策と環境保全、水資源及び水環境の確保、経済、社会及び環境が調和する発展戦略について議論されました。また、本シンポジウムを契機に「万里の長城・森の再生プロジェクト」の準備が始まりました。

【公益財団法人イオン環境財団について】

当財団は、地球環境を守るためのさまざまな活動を実施するとともに、同じ志を持つ各団体への支援・助成の実施を目的として1990年に設立されました。設立以来、生物多様性の保全のため、植樹活動や環境NGO・NPOの支援、国際会議の実施に継続的に取り組んでいます。

（公益財団法人イオン環境財団ホームページ <http://www.aeon.info/ef/>）

【中国におけるイオンの環境・社会貢献活動について】

中国では、当財団による活動のほか、公益財団法人イオンワンパーセントクラブを通じてさまざまな活動を行っています。

◆植樹活動



「日中環境国際シンポジウム」での提案をきっかけに、当財団は1998年から「万里の長城・森の再生プロジェクト」を開始しました。継続的な植樹活動を通じて累計約15,000人の日中ボランティアの方々のご協力のもと、2010年には植樹本数が100万本を超えました。その後も育樹活動として木々のメンテナンス、及び植樹活動を継続しています。

◆ティーンエイジ アンバサダー（（公財）イオン1%クラブ主催）

1990年より実施している高校生の国際交流事業「ティーンエイジ アンバサダー」では、これまでに日本を含む18カ国1,852名が参加しています。日中間でのティーンエイジ アンバサダー事業は2009年以降毎年継続して取り組み、日中国交正常化40周年の2012年には各国100名が参加するなど、国別の参加者では本事業最大の841名が交流してきました。小さな大使（アンバサダー）として、両国の政府、大使館への表敬訪問、授業体験やホームステイを通じて価値観の多様性を学び、相互理解を深めています。

◆イオン スカラシップ（（公財）イオン1%クラブ主催）

日本で学ぶアジアからの私費留学生及びアジア各国の大学生に奨学金を付与する「イオン スカラシップ」を2006年より実施し、累計7カ国3,900人以上の大学生に奨学金を支給してきました。中国の大学生、及び日本で学ぶ中国からの私費留学生に向けて、これまでに3,103人に奨学金を支給しています。

◆国際交流を通しての学生への環境教育



当財団は2012年より、グローバルな視野で活躍する環境分野の人材育成を目的に、アジアの大学生を対象に「アジア学生交流環境フォーラム（ASEP）」を毎年実施しています。中国では2014年に開催し、清華大学（中国）、早稲田大学（日本）、高麗大学校（韓国）、マラヤ大学（マレーシア）、ベトナム国家大学ハノイ校（ベトナム）の5カ国80人が参加しました。教育プログラムは

清華大学監修、早稲田大学協力によるもので、「水と人」をテーマに、北京、天津、内モンゴル、成都などでフィールドワークを実施し、生物多様性について考察を深めました。「ASEP」には今年の第4回（ベトナム開催）までに6カ国292人の大学生が参加しています。

また、（公財）イオン1%クラブが2010年に開始した「アジア ユースリーダーズ」では、アジアの高校生・大学生が開催地の社会問題の解決に向けてディスカッションを重ね、現地政府に解決策を提言します。今年は天津で「ゴミ問題」をテーマに実施しました。本プログラムにはこれまでに6カ国538人の高校生・大学生が参加しています。